

財団法人 庭野平和財団 御中
コード No : 20-S-008

提出 : 2021 年 4 月 30 日

新型コロナ対応緊急プログラム
1. 緊急助成第 2 弾 2. HAPIC でのセッション支援
事業完了報告書

国際協力 NGO センター (JANIC)
作成 : 伊藤衆子

【1】COVID-19 緊急助成プログラム第 2 弾

1. プログラムの目的

新型コロナウイルス感染拡大に際し、通常活動の継続的な実施が困難になり、緊急支援が必要になった組織・団体に対する庭野平和財団による緊急助成事業の事務局業務を行う。

<対象>

- a) JANIC、関西 NGO 協議会、名古屋 NGO センターの正会員団体 (2020 年 10 月 1 日時点)
 - * 法人格の有無は問わない
- b) 2020 年度の収益見込みが 1 億円未満の団体を優先
 - * 2020 年 4 月～2021 年 3 月を基本的に想定しているが、年度開始月が異なっても可。
- c) 事務局所在地 (本部や主な事務局拠点) が東京都以外の団体
- d) 新型コロナウイルス感染拡大前から継続的な活動を行ってきた組織

上記を満たした上、以下のいずれかに該当する組織や活動に助成する。

- ①開発途上国での新型コロナウイルス感染の影響を受けつつも、プログラムを継続、再開、又は新型コロナ対応を含め、新たなニーズに対応する新規プログラムなど、優先度の高いプログラムを実施する日本の組織、団体 (いわゆる国際協力 NGO、NPO)。
- ②上記を含め、新型コロナウイルス感染拡大により、2020 年度の通常活動の継続的な実施が困難になったため、緊急に支援が必要になった組織、団体。

<助成費目>

- ▶ 食料や生活必需品、マスクや消毒薬等の物資の購入費用、感染予防に関わる費用や生活維持のための費用等。
- ▶ 2020 年度の通常活動を実施するために必要な組織基盤の維持にあたる人件費等の費用の一部。
- ▶ その他、コロナ禍において有効と考えられる活動の費用。

2. 主な活動内容・スケジュール

【主な活動内容】

(1)NPF プログラム「緊急助成」募集要項作成・募集・相談対応

- ・ 募集要項、応募用紙作成
- ・ 関西 NGO 協議会、名古屋 NGO ネットワークへの情報・資料提供
- ・ 募集広報：2020 年 11 月 6 日～11 月 30 日
- ・ 相談対応

(2)応募受付・優先順位付け

- ・ 応募受付
- ・ JANIC として助成優先順位付け、関西 NGO 協議会、名古屋 NGO ネットワークの優先順位付結果取り付け、庭野平和財団に提出する
 - ・ 優先順位付け項目

A：正式に申請がされて、審査できる状態で書類が整っていることを確認する。

【問題なし：○/一部不十分：△/不十分で受付不可：×】

B：申請内容が助成趣旨に合致していることを点数付け。(3 職員が合議で決定)

- 【1】 「2.活動内容」 助成対象に合致している
- 【2】 「3.今回の緊急助成が必要となった理由」 合理的である
- 【3】 「4.達成目標」 合理的である
- 【4】 「4.達成後に期待される成果」 助成趣旨に合致している
- 【5】 「5.支出計画」 4 達成のために現実的である
- 【6】 「6.実施スケジュール」 4 達成のために現実的である

C：申請書に反映されない情報も含めて JANIC として総合判断をし、優先順位を決定する。(事務局長)

A・B 以外の状況を含めた総合評価

申請書以外の情報による総合判断 【優先順位高い：◎/優先順位低い：×】

その理由

【スケジュール】

ネットワーク連絡	関西 NGO 協議会、名古屋 NGO センター連絡・調整	～11/1
応募に関する相談	メール転送	～12/1
	問合わせへの対応	～12/15
	庭野確認問合せ	適宜
応募書類受付	応募書類の管理	
	・ リスト作成	
	・ 書類の保存	～12/1
応募書類確認	応募書類の不備確認	～12/1
	不備連絡担当	～12/1
優先基準の作成	応募書類の審査基準を作成	～11/1
	応募書類リストに採点列を入れ込み作業	～12/3
優先順位付け	各応募書類に各署員が点数をつけ、優先順位をつける	～12/7
	優先順位の確認	～12/7
財団連絡	書類審査の結果リストや応募書類の送付	～12/15

3. 活動の成果

助成上限額（1 案件あたり）50 万円~100 万円、助成総額：500 万円程度として公募を行い、25 団体からの応募があり、庭野助成財団の審査委員会で申請書の審査を行い、7 団体への助成が決定した。

関西 NGO 協議会、名古屋 NGO センターの協力を得て、広い地域からの応募をえることができた。

■JANIC		3団体応募
ワールドランナーズ・ジャパン	653,000	

■名古屋NGOセンター		7団体応募
チェルノブイリ救援・中部	960,000	
アジア車いす交流センター	1,000,000	
インド福祉村協会	500,000	

■関西NGO協議会		15団体応募
CODE海外災害援助市民センター	590,000	
フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	1,000,000	
RAFIQ（在日難民との共生ネットワーク）	500,000	

（助成決定金額¥）

4. 今後の課題

- ・ コロナ禍での組織・活動の影響を受ける内容の変化、NGO の状況とニーズの把握。
- ・ 助成実施団体、助成不採択団体の状況の把握。
- ・ 庭野平和財団との連携による同様の事業企画とスピーディな実施による NGO 支援。

【2】HAPIC でのセッション支援



HAPIC
HAPPINESS IDEA CONFERENCE

CONCEPT PROGRAMS OUTLINE PARTNERS NEWS MATERIAL

PROGRAMS

04

2/14 Sun 15:15-16:45

ブレイクアウトセッション

「新型コロナ禍の新たな国際協力とNGO活動」

世界的な新型コロナの感染により、ODAやNGOの活動も大きな影響を受けており、今後の国際協力のあり方が問われています。国際社会では、新型コロナウイルス対策の公平なアクセスを加速化させる「ACTアクセラレーター」など新たな国際協調のメカニズムも生まれ、政府もODA戦略の質的变化が求められています。このような状況の中で、国際協力や、NGOの活動はどうあるべきか、ODAやNGOの進むべき方向性や連携のあり方等について議論を深め、今後の国際協力の大きな方向性を導き出す。

1. プログラムの目的

『課題解決の先へ。HAPIC（ハピック）－HAPPINESS IDEA CONFERENCE』においてセッションを主催し、コロナ禍でのNGOの国際協力はどうあるべきかーこの1年を振り返る。

2. 主な活動内容・スケジュール

「新型コロナ禍の新たな国際協力とNGO活動」と題したセッションを開催。

2021年2月14日（15:15-16:45 90分）

<登壇者>

植野 篤志	外務省 国際協力局長
近藤 哲生	国連開発計画（UNDP） 駐日代表
西山 美希	シェア＝国際保健協力市民の会
堀江 由美子	セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン アドボカシーヘッド
井川 定一	関西 NGO 協議会提言専門委員政策アドバイザー
若林 秀樹	JANIC 事務局長、国連グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン理事
熊岡路矢	日本映画大学教授／特任教授。日本国際ボランティアセンター（JVC）顧問・元代表／代表理事。法務省難民審査参与員

<セッション進行>

セッション概要説明・登壇者紹介	5 分
新型コロナ禍の新たな国際協力(ODA への影響と今後)	12 分
新型コロナ禍の新たな国際協力と NGO 活動	8 分
NGO 研究会報告（新型コロナ感染症拡大に対する日本の国際協力 NGO の対応戦略）	10 分
新型コロナ禍の新たな国際協力と NGO 活動	8 分
新型コロナ禍のなかでの国際機関と国際協調	12 分
パネルディスカッション	30 分
まとめ	5 分

<セッション概要>

日本政府、国連、NGO からの登壇者が、コロナ禍での国際協力への影響、影響下での活動を踏まえ、ポスト・コロナ及び将来の国際協力の方向を確認した。NGO からは、国際保健協力、セーブ・ザ・チルドレンの各セクターに加え、本年度実施された NGO 研究会調査報告より国際協力 NGO 全体の視点でも確認を行った。

■ディスカッション・質疑：

- ・ ODA における NGO 連携ウィズ・コロナ、ポスト・コロナ時代の NGO 事業支援
- ・ 日本政府による二国間と多国間の国際協力に NGO パートナーとし、市民社会の参加が必要
- ・ ウィズ・コロナ、ポスト・コロナ時代のより効果的・効率的な ODA の実現のためには NGO との連携強化が不可欠
- ・ 感染拡大への対応だけでなく、途上国への国際協力の必要性の理解が重要

■結論・ネクストアクション

- ・ 全体として、国際協力に逆風が吹く中で、NGO、政府、国際機関と一緒に連携して更に国際協力を進めていくというコンセンサスが取れた。
- ・ コロナ禍においても、場を知り、現地のコミュニティから信頼を得て、細かく対応できる NGO の協力は必須である。
- ・ NGO と他セクター（政府（ODA）、企業、市民ひとりひとり）との協働が重要。
- ・ 二国間援助だけでなく、COVAX ファシリティのように、自国ナショナリズムを乗り越えた国際協調が必用。またセクターや世代を超えた対話と連帯も必要。
- ・ 外務省局長より、2021 年度も EARTH CAMP 継続（ハイブリッド型のイベント）や、直接連絡歓迎との発言があった。

<スケジュール>

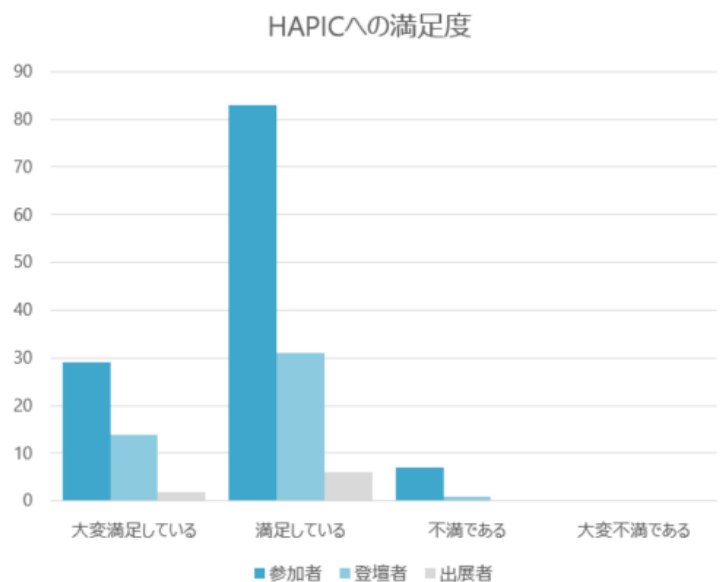
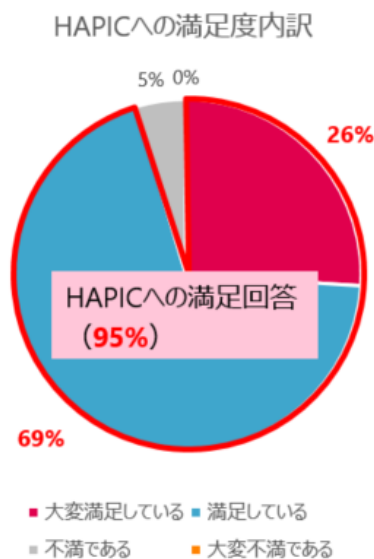
12 月	セッション企画 登壇者打診、プロフィール取り付け・ウェブサイト掲載
1 月	参加者募集広報 オンライン環境確認、必要備品やツール整備 進行打合せ
2 月	登壇者プレゼン資料取り付け、オンライン会場への掲載 申込者への事前・当日案内 HAPIC 当日運営 登壇者謝金支払い
3 月	精算、振返り会議、報告書作成

3. 活動の成果

- ・ HAPIC には 589 人（うち JANIC スタッフ 20 人）の参加が得られた。

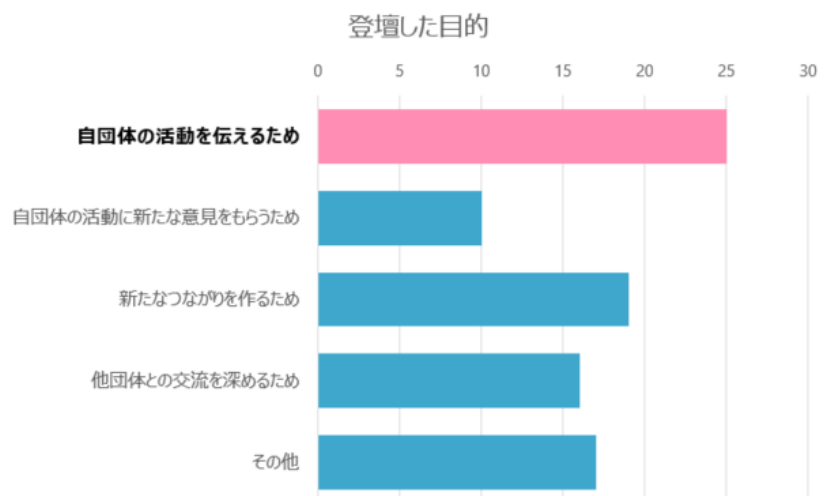
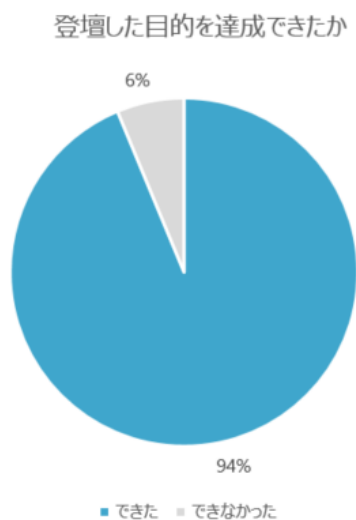
■満足度の回答状況

- ・ HAPIC 参加者（登壇者・出展者含む）の満足度評価では、回答者全体の 95% が満足している（[「大変満足している」、または「満足している」]と回答。



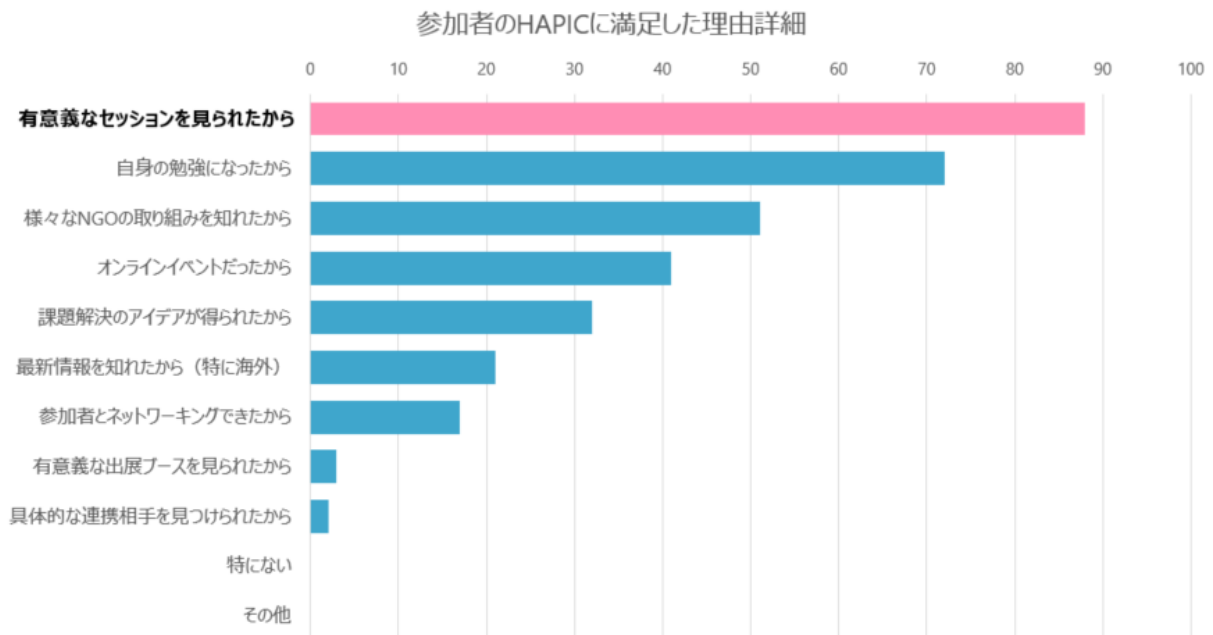
■セッションに関する分析 | 登壇者用アンケート

- ・ 登壇者の 94% が登壇した目的を達成できたと回答。
- ・ 登壇目的では、「自団体の活動を伝えるため」を 53 名中 25 名（47%）が選択。



■セッションに関する分析 | 参加者用アンケート（HAPIC 全体の満足度）

- ・セッションに満足したと回答した人は回答者 118 名中 88 名（75%）。



※HAPIC 全体報告書は別紙参照

<セッション成果>

- ・コロナ禍における今後の ODA 及び NGO 活動のあり方、国際協調メカニズム、政府・国際機関と NGO との連携のあり方について 360 度で現状理解と課題、方向性について共有できた。
- ・SDGs ジャパンのセッションと JANIC セッションを統合したこと、関西 NGO 協議会のアンケート結果発表を冒頭にできなかったことにより、セッションの組み立てが難しく、焦点がぼけることが懸念だったが、国際協力に関する外務省トップ、開発系国際機関の駐日代表、そして SDGs ジャパン、現場系の NGO が集り、3 者によるグローバルな社会課題解決に向けた協力をより強力に進めることの合意が得られ、当初の狙いは果すことができた。
- ・NGO 側は、モデレーターを含め、事前に資料のあり方を含めて丁寧に打合せした結果、前半のプレゼンの役割分担は狙い通りできており、NGO からの政府、UNDP に対する質問からディスカッションに入ったことは、プレゼンの理解を深め、議論の焦点を絞ることができて非常に良かった。ただもう少し時間を取って、フロアーからの質問を基に、関連するディスカッションの時間が多く取れたら、なお良かった。

4. 今後の課題

- ・社会状況や参加者ニーズに沿った開催形態の検討とオンライン開催のスキル向上。
- ・収益事業化のための協賛・参加者規模の拡大に向けた魅力的なプログラムづくり。
- ・「新型コロナ禍の新たな国際協力と NGO 活動」テーマの追求、フォローアップ。

以上